

ほっかいどう

広報紙

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



2020.4.24
民族共生象徴空間
オープン



当たる
道産品
裏表紙をチェック! >>>

2019年
11月号
令和元年10月発行
通巻232号

【特集】進めよう! 一人一人の防災対策

「まさか」は必ずやってくる。 日頃からの備えが、いざというときの防災力を高めます。

災害から命を守ることができるのは、皆さん一人一人の心がけです。
家庭や地域で、防災についてできることを進めましょう。

避難のときに持って逃げる
「非常持出品」と、災害後の
生活を支える「非常備蓄品」に
分けて用意しておきましょう。

非常持出品

- 貴重品 (現金、保険証、免許証)
- 携帯ラジオ
- モバイルバッテリー
- 懐中電灯
- ヘルメット・防災ずきん
- 応急医薬品

非常備蓄品

- 食料 (缶詰、カップラーメン、チョコレート)
- 水 (ペットボトル)
- 燃料 (ガス)
- 生活用品 (衣類、食器)
- 工具類 (シャベル、ラジオ)

ほかにも非常用トイレや
ポータブルストーブを
用意しておくとう安心です。

▶防災に関する情報及び災害、
気象、地震などの各種情報は
北海道防災情報へ
北海道防災 検索



被災地域の復旧・復興とともに
災害に強い地域づくりを進め、
本道の強靱化を目指します。

北海道知事 **鈴木直道**



災害の教訓を 防災対策に生かす

昨年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から1年余りがたちました。この大規模災害を機に、皆さんはどんな防災対策を心がけるようになりましたか。

胆振東部地震では、道内でかつて経験したことのない最大震度7を観測し、大規模な土砂災害などによって多くの尊い命が失われました。また、ブラックアウトや断水などにより、暮らしや経済社会活動は大きな影響を受けました。もしも同じような災害が冬に起きていたとしたら、被害の深刻化は避けられなかったことでしょう。

道は、この災害の教訓を今後の防災対策に生かすため、専門家などで構成する「平成30年北海道胆振東部地震災害検証委員会」を昨年11月に設置し、被災地における聞き取り調査などの検証を行いました。



北海道胆振東部地震災害検証委員会

最終報告書から 見えてきた課題

委員会がことし5月にまとめた災害検証報告書では、道民の防災意識に関する課題が改めて浮き彫りになりました。課題の一つは、自分の身は自分で守るという「自助」の意識です。「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、災害から命を守るための備えや避難行動を一人一人が取れるようにすること。そのためには、最低3日分、できれば1週間分の食料、飲料水、生活必需品の備蓄や非常用電源の確保も必要です。

さらに、地域の人たちが互いに助け合う「共助」の意識についても提言に盛り込まれました。高齢者など避難行動に支援を必要とする人たちに対して、地域住民が互いに連携し合う体制づくりが求められています。

こうした意識を徹底して地域の防災力を高めていくためには、住民参加型の避難訓練や、厳冬期の大規模災害を想定した防災訓練、地域や学校などでの防災教育が今後の課題といえます。

防災の心構え 「いざはふだんなり」

委員会の座長として災害検証を進めてきた佐々木貴子教授(北海道教育大学札幌校)は、報告書の中で「いざはふだんなり」と提言しています。これは、「いざというときに発揮される力は、普段の生活の中で身に付いた力であり、その力は、不断に身に付けていかなければならない」という意味です。また、「もしも大地震が真冬に起きたならば、もしも停電が続いたならば…」と想像する心が大切だとも述べています。

道では、こうした災害検証の結果を今後の防災対策に役立てる取り組みを進めています。道民の皆さんは、「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、冬に起きるかもしれない大規模災害に備えて、何ができるかという当事者意識を持ち、家庭や地域でできる防災対策に取り組んでいただければ幸いです。詳しくは中面をご覧ください。

鈴木知事が地域の取り組みなどを
動く
動画でご覧いただけます
北海道庁インターネット放送局 検索



ほっかい家族

絵: あいば ゆう (第2回北のまんが大賞 大賞受賞)



北海道で必要な防災って?

詳しくは中面へ



災害の教訓を語り伝えるために

身近な地域で過去に発生した災害について、皆さんはどれくらい知っていますか。例えば、今から180年以上前の1834(天保5)年、石狩川河口付近(現在の石狩市)を震源域として起きた「石狩地震」は、マグニチュード6.4、最大震度6で、旧暦1月1日(新暦2月9日)の厳冬期に発生したと推定される大地震でした。大規模災害はどの地域でも起き得るからこそ、語り継いでいくことが大切です。

自らの被災経験をもとに、命を守る大切さを語り伝える活動をしている人たちがいます。それぞれのお話を参考に、皆さんも災害への備えに役立ててください。



釧路市連合防災推進協議会
会長 土岐 政人さん

釧路沖地震(1993年)

災害の記憶を風化させないために、避難訓練などを重ねています。



当協議会は、釧路市内の町内会ごとに組織される17の防災推進協議会をネットワークする自主防災組織です。毎年の活動として、災害図上訓練や冬の地震を想定した「避難所運営ゲーム北海道版(Doはぐ)」を実施しています。

私の住む大楽毛地区は、沿岸部で高台もないことから、避難場所は屋上のある建物などに限られています。そのため、この地区では年1回、連合町内会と学校、企業が連携して行う1,000人規模の避難訓練が定着しています。釧路市民の防災意識の高さは、釧路沖地震の経験が大きいからだと思います。私も当時、子どもを連れて、はだして家の外に出たとたん、強い揺れで身動きが取れなかったほどです。そうした記憶を風化させないためには、今できることとして避難訓練などを重ねていくことが大切だと思います。

このほか、私が実行委員長を務める「防災ワンデー」は、釧路沖地震の発生した1月15日前後に毎年、最新の防災情報をテーマにした講演会やパネル展などを開催しているイベントです。このイベントを通じて、多くの皆さんに防災の心構えが浸透することを願っています。



ことしの「防災ワンデー」

特集

進めよう！ 一人一人の 防災対策

災害の経験 生かしまし



命を守る大切さを語りつなぐ
代表 三浦 浩さん

北海道南西沖地震(1993年)

経験を語り伝えることが使命。
最後に命を守れるのは、自分自身です。



北海道南西沖地震では、行方不明者を含め、奥尻島だけで198人が被災しました。当時、高校1年だった私は、たんすの下敷きになった祖父を背負い、祖母の手を引いて高台に逃げました。その途中、津波がものすごい速さで通り過ぎました。地震が収まってから、わずか3分後のことです。

間一髪で助かったのは、「地震が起きたら高台に逃げろ」という教えを日頃から聞かされ、実際に避難した経験があったから。津波は内陸部の地域には関係がないと思うかもしれませんが、土砂災害や河川の増水時にも、高いところに逃げるのは共通しています。

災害から地域を守りたいという思いで消防士になってからも、津波の経験は早く忘れたいと考えていました。しかし、2004年のスマトラ島沖地震の被災地を訪れたとき、自分の経験を通して防災の重要性を伝えられること、それによって助かる命があることを実感したのです。

4年前からは栗山町に拠点を移し、防災の語り部として各地を訪れています。生かされていることに感謝しつつ、防災は悲しい出来事を防ぐための備えだと感じています。最後に自分の命を守れるのは自分自身しかいません。自然災害から命を守るために必要なことを、次の世代につないでいきたいと思っています。



自作の紙芝居で経験談を話す三浦さん



被災経験を絵本にした「あの坂へいそげ」



暮らしの中で防災力を高めよう

適切な行動につながる防災の学び

防災教育は、普段の生活はもちろん、災害が発生したときから復旧・復興までのあらゆる段階で、「命を守る」「被害を軽減する」「回復を助ける」という力を高める活動です。

その一環として、道が毎年取り組んでいるのが「北海道シェイクアウト」。地震を想定して参加者が同じ日時にそれぞれの場所で一斉に行動するという防災訓練で、ことしは9月6日に実施し、例年、全道で10万人以上が参加しています。

このほか道では、小中学校の授業の中で、児童・生徒が防災について体験的に学ぶ「1日防災学校」の取り組みをサポートしています。今年度の実施校(予定分を含む)は約50市町村約80校。「避難所運営ゲーム北海道版(Doはぐ)」や防災かるた、炊き出し訓練など、楽しみながら体験を通して学ぶ防災教育コンテンツを用意しています。



災害用炊飯袋を使った炊き出し訓練(置戸中学校)

「Doはぐ」は、真冬の直下型地震を想定した防災カードゲームで、道庁危機対策課や各振興局地域政策課で貸出を行っています。

北海道 Doはぐ 検索

冬の「まさか」に備えよう

冬の北海道では、大規模災害の発生は命の危険に直結します。万一に備え、家庭での備蓄食料品は、「主食(炭水化物)＋主菜(たんぱく質)」の組み合わせで最低3日分、できれば1週間分を確保しましょう。また、ライフラインが停止する場合を想定し、水は1人当たり1日1リットルを1週間分のほか、熱源となるカセットコンロとボンベも準備しておきましょう。

さらに、冬の災害時には、暖を取るための車中泊や屋内での自家発電機の誤った使用により、エコノミークラス症候群や一酸化炭素中毒などの発生リスクが高まります。そのため、地域でも厳冬期を想定した防災訓練が必要です。



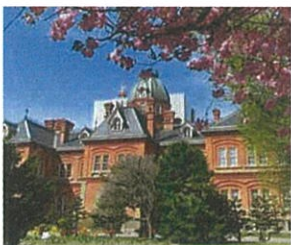
冬季防災訓練研修(帯広市)

みんなの 赤れんが

お問い合わせは
▶マークの窓口、またはウェブサイトへ。

赤れんが庁舎リニューアル 及び一時閉館のお知らせ

北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)は、1968年の復原工事以来50年以上が経過し、各所に劣化が著しく進行しているため、大規模改修を行うことから、現在閉館しています。工事の完了は2022年度を予定しており、リニューアル後は、国内外に向けた歴史文化・観光情報の発信拠点として活用を図っていきます。



赤れんが庁舎 リニューアル 検索

▶道庁総務部総務課 ☎(011)204-5055

古いビルや工場、畜舎、倉庫 などを所有している方へ

1977年以前に建てられた事業用建物には、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を使用した機器(変圧器・コンデンサー・照明用安定器など)が残っている場合があります。PCBは法律で定められた期限までに処分が必要です。



機器の一例(変圧器)

<処分期間>

変圧器・コンデンサー	2022年 3月31日まで
安定器・汚染物等	2023年 3月31日まで

PCB含有機器等(廃棄物含む)を確認した事業者は、必ず期限内に適正な処理をお願いします。また、道からアンケートなどの調査依頼があった際は、ご協力をお願いします。



PCB 北海道 検索

▶道庁循環型社会推進課 ☎(011)204-5192

10月1日から消費税の軽減 税率制度が導入されています

10月1日から、消費税及び地方消費税の税率の引き上げに伴い、消費税の軽減税率制度が実施されています。軽減税率制度の詳細は特設サイトをご覧ください。

国税庁 消費税軽減税率制度 検索

▶制度の内容は道庁税務課 ☎(011)204-5060

▶中小企業への支援は道庁中小企業課 ☎(011)204-5331

ご存じですか 苦情審査委員制度

道が行った業務や制度について、皆さん自身の利害に関わる苦情を申し立てできる制度です。皆さんに代わって苦情審査委員が公正で中立的な立場から必要な調査などを行い、審査します。

個人情報保護にも十分配慮しますので、お気軽にご相談ください。

道政相談 検索

▶道庁道政相談センター ☎(011)204-5523

10月は 「食品ロス削減月間」です

毎年10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」です。日本の食品ロスの約半分は一般家庭から出ています。実りの秋、食欲の秋に、家庭でできる食品ロス削減の取り組みについて考えてみませんか。

道庁 どうさん食べきり 検索

▶道庁食品政策課 ☎(011)204-5427

北海道立学校 ふるさと応援事業について

寄附者が「北海道立学校ふるさと応援事業」として、北海道にふるさと納税(寄附)を行うと、寄附額の2分の1を指定した道立学校の特色ある教育活動や教育環境の充実に活用し、残り2分の1をグローバル人材育成等の道立学校全体の教育活動の充実に活用する制度です。詳細はウェブサイトをご覧ください。



北海道立学校ふるさと応援 検索

▶教育庁教育政策課 ☎(011)206-6354

に学び、明日への備えに よう。

▶特集に関するお問い合わせ
道庁危機対策課 ☎(011)204-5008



洞爺湖有珠火山
マイスターネットワーク
代表 阿部 秀彦さん

有珠山噴火(2000年)

火山とともに生きる知恵を
子どもたちに身に付けてほしい。

洞爺湖有珠火山マイスターは、洞爺湖有珠火山地域に関する正しい知識や噴火の記憶・経験、災害を軽減する知恵などを次世代や地域内外に向けて語り継いでいく“学びと伝えの実践者”です。私は小中学校事務職員として、伊達市内の学校に勤務している時に有珠山の噴火を経験しました。

有珠山は、20世紀だけでも4回噴火をしています。ひとたび火山活動が起きると、ほぼ間違いなく学校は避難所となり、多くの方の生活の場となります。数十年に一度の噴火にどう備えるべきかを子どもたちや学校関係者に伝え、力添えのできる存在でありたいと考えています。

また、見方を変え、温泉やきれいな景色は火山が生み出したものであり、多くの野菜が育つ広い農地や、果樹栽培に適した土壌などもすべてそうです。私たちは自然の恵みを受けて暮らしていることを忘れてはいけません。

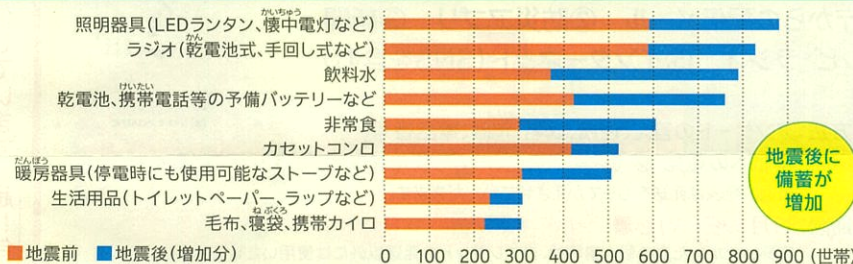
今年度からは、市内の小中学生が地元の歴史や文化などを学ぶ「だて学」の中で、有珠山の歴史や防災に関する授業に携わっています。こうした機会を通じて、火山とともに生きていく知恵を子どもたちに身に付けてほしいと思います。



洞爺湖町の小学生を対象にした
防災の授業

災害に備えた家庭の備蓄について(地震前・地震後)

※複数回答、上位9項目を抜粋
対象:厚真町、安平町、むかわ町 全世帯



出典/平成30年北海道胆振東部地震に関する住民アンケート調査報告【中間報告】

まさかに
備えて



- 住んでいる地域の危険ポイントを予め把握しておきましょう。
- 避難情報や気象情報の意味を正しく理解し、危険な場合は、安全な場所へ早めに避難しましょう。
- ライフラインの途絶を想定し、非常食や非常用電源など、必要なものを用意しておきましょう。

復旧・復興 レポート

昨年9月に発生した胆振東部地震の被災地の復旧・復興に向けた主な取り組みを紹介します。

道路や河川の復旧

胆振東部地震では、厚真町を中心に広範囲で大規模な山崩れや、道路・河川などのインフラに多くの被害が発生しました。厚真川では、山崩れにより河川が土砂で埋まったことから、数十台もの機械を使って土砂の撤去作業を行いました。引き続き、本格復旧に向け、取り組んでいきます。



厚真川における土砂の撤去

営農再開に向けた農地等の復旧

胆振東部3町※の主な産業は農業ですが、山崩れによる土砂流入で、農地や排水路などに大きな被害を受けました。被災された農家の皆さんが一日も早く営農を再開できるよう、農地などに堆積した土砂の撤去を迅速に進めており、復旧を終えた農地では、水稲などの収穫期を迎えました。



土砂を片寄せしたほ場

※厚真町、安平町、むかわ町

森林・林業被害の復旧

山崩れにより流出した土砂や倒木の除去などの応急的な工事を行った後、不安定な土砂が余震や降雨により流出することを防止するため、山の斜面の早期安定を目的とした山腹工事(斜面の土壌をコンクリート枠で抑えるなどして緑化し、森林へ誘導)を進めています。



厚真町幌内地区の山腹崩壊の復旧状況

イベント案内

防災・復興シンポジウムin胆振

防災意識向上の啓発と復興に向けたまちづくりについて議論するシンポジウムを開催します。どなたでも参加できますので、下記にお申し込みください。

- 日時/令和元年11月18日(月) 13:30~17:00
- 場所/グランドホテルニュー王子 2階芙蓉の間(苫小牧市表町4-3-1)
- 締切/11月8日(金)
- 申し込み・問い合わせ先/室蘭建設管理部事業室地域調整課 ☎(0143)24-9537

復旧・復興に向けた道の取り組みや進捗はこちら。ロードマップは毎月更新。

胆振東部地震 ロードマップ 検索 ▶道庁胆振東部地震災害復興支援室 ☎(011)204-5795

介護のしごとトークイベント &バスツアーを実施します

道では、介護の仕事の役割や魅力を広く道民の皆さんに理解していただき、介護の仕事に多くの方に就いていただけるよう普及啓発トークイベントと、実際の職場を見学するバスツアーを実施します。参加は無料で、どなたでも大歓迎です。



<トークイベント>

11月2日(土)釧路・9日(土)函館
ゲスト:杉田かおるさん ほか
11月10日(日)札幌・11日(月)苫小牧
ゲスト:いとうまい子さん ほか
<バスツアー>
10月26日(土)苫小牧
11月27日(水)札幌

詳細はウェブサイトをご覧ください。

北海道 介護のしごと 検索

▶道庁地域福祉課 ☎(011)204-5268

お知らせ 道議会

定例会の概要などをお伝えします。

令和元年第2回定例会(6/20~7/12)

■定例会の概要

2019(平成31)年4月執行の第19回統一地方選挙後初となる今定例会では、知事から道政執行方針の説明と、「行財政運営方針」に沿った取り組みを着実に進め、道政執行方針で述べた政策を積極的に展開していくことを基本とした令和元年度補正予算案等の予算案7件と条例案20件、その他の案件7件の提案があり、議決されました。

■本会議や予算特別委員会の主な議論

- 「道が直面する厳しい状況を乗り越え、北海道の未来に明るい展望を見だし、いくため、どのような姿勢で道政執行に当たっていく考えなのか」について
- 「知事は、公約の推進管理をどのように行い、道民に対してどう示していくのか」について

- 「『ほっかいどう応援団会議』の具体的な目的や運営方法」について
- 「JR北海道の路線問題に対して、どのように認識し、今後どのような姿勢で国やJR北海道、地域の関係者と向き合っていく考えなのか」について
- 「観光振興を目的とする新たな財源の確保に対して、どのようなスケジュールでどのようにして市町村と調整を図り、道筋をつける考えなのか」について
- 「統合型リゾート施設の誘致に対して、どのような状況になれば最終的な判断を行うのか」について



■主な議決の状況

◎知事提出案件

- 予算案 7件 「国内外からの観光客の受け入れ体制の強化を図るとともに、航空路線の就航地と連携した積極的な誘客などに取り組むための経費」 など
- 条例案 20件/その他 7件 「北海道児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案」 など

■委員会・議員提出案件

- 意見案 8件 「国民健康保険の子どもに係る均等割保険料(税)軽減措置の導入を求める意見書」 など

カルチャーナイト2019(7月19日開催)



道民の皆さんに議会を身近に感じてもらうためカルチャーナイトで議場見学を実施しました。

~定例会のお知らせ~

11月下旬に、令和元年第4回定例会を開会予定です。議会中継は、スマートフォンでもご覧いただけます。なお、9月10日開会の令和元年第3回定例会の概要については、次号でお知らせします。



~ウェブサイトをご覧ください~

議会中継・録画、議会の日程、会議録、傍聴・見学案内、議会時報などをご覧いただけます。
北海道議会 検索
質問などの詳細は、冊子「北海道議会時報」でもご覧いただけます。各振興局等での閲覧のほか希望者への配布もしますので、下記にご連絡ください。

▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691

いきいき地域から

総合振興局・振興局の話題をお届けします。

指定され、その景観や貴重な植生から町の重要な観光資源となっています。この湿原の魅力により多くの人に伝えるため、散策ツアーや学校での森林教室の実施のほか、散策路や案内看板などの整備を進め、ウェブサイトなどでも情報発信しています。ぜひお越しください。

上川総合振興局 松山湿原 検索 ▶ 北部森林室 ☎(01656)2-1726

おいでよ! 天空の園・松山湿原の森プロジェクト

上川北部の美深町にある松山湿原は、環境省から「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に



松山湿原えぞ松沼

渡島総合振興局「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産推薦候補に選定!



函館市大船遺跡

7月30日に開催された文化庁文化審議会において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産推薦候補に選定されました。この縄文遺跡群は、津軽海峡を挟んで4道県に点在する計17遺跡から構成される考古学的遺跡群で、渡島地域では函館市の大船遺跡と垣ノ島遺跡があります。今後、2021年の世界文化遺産登録の実現に向け、準備を進めていきます。

北海道・北東北の縄文遺跡群 検索 ▶ 環境生活課 ☎(0138)47-9435

イベントニュース

今月開催される世界的なイベントを紹介します。

G20観光大臣会合が倶知安町で開催されます

●開催日/10月25日(金)・26日(土)
●会場/倶知安町「ニセコHANAZONOリゾート」
世界20カ国・地域で構成されたG20とは、Group of Twentyの略。正式名称は「金融・世界経済に関する首脳会合」です。
マクロ経済※や貿易のみならず、世界経済に大きな影響を与える開発、気候変動・エネルギー、保健、テロ対策、移民・難民問題など、地球規模の課題についても議論されます。

ことしは日本が初めて議長国を務め、大阪市でのサミットをはじめ、国内8都市で関係閣僚会合を開催。倶知安町においてG20観光大臣会合が開かれ、観光分野の世界的課題について議論される予定です。※政府、企業、家計を一括りにした、経済社会全体の動きのこと。

世界へ北海道の食の魅力をPRする「まるしえ20(twenty)」第3弾

G20観光大臣会合の開催をPRするとともに、北海道が誇る食の魅力を発信するフェア「まるしえ20」を3回にわたって開催。後志管内をはじめ、道内の特産品や道産食材を活用した料理を、これまでニセコオータムフードフェスティバル会場(9/12~15)やニセコ高橋牧場(10/4~6)で提供してきました。その第3弾として、10月25日(金)から3日間、ヒルトンニセコビレッジのロビーにて特産品の販売を行います。詳しくは、下記ウェブサイトをご覧ください。

G20観光大臣会合 検索 ▶ G20観光大臣会合実行委員会事務局 ☎(011)204-5159

2020.4.24 民族共生 象徴空間 オープン

ウポポイ NATIONAL ANI MUSEUM and PARK 民族共生象徴空間

アイヌの伝統料理「オハウ」や「シト」とは?

アイヌの人々の主食に「オハウ(汁物)」があります。海水の塩味を生かし、動物の肉や魚、きのこや山菜類を煮込んだ具だくさんのスープです。

北海道の冬は寒さが厳しいため、干し肉や干し魚、乾燥させた山菜やオオウバユリの球根を利用した保存食は欠かせませんでした。また、料理にコクや甘み、満腹感を与えるために、アザラシ、熊、サメ、タラなど、動物や魚類の脂を調味料として使ってきました。

イナキビやモチアワなどが原料の「シト(団子)」は、冠婚葬祭や先祖供養の際に作られ、狩りに持参する弁当や土産にもなりました。

アイヌの人々にとって四季折々の野生植物や動物、魚介類は重要な食材ですが、枯渇しない狩猟や採取を心がけていたそうです。詳しくはアイヌ民族文化財団の右記ウェブサイトをご覧ください。



エゾシカ肉のオハウ



白老町ポロト湖畔に誕生するアイヌ文化復興・創造の拠点
「ウポポイ(民族共生象徴空間)」の入場料、休業日などが決まりました。
●入場料/大人(個人)1,200円、高校生(個人)600円、中学生以下無料
●休業日/月曜日(祝休日の場合はその翌日以降)および年末年始(12月29日~1月3日) ウポポイ 検索 ▶



おいしい! 道産品プレゼント!

抽選で30名様

函館米穀(株)の令和元年産新米「北海道産ふっくりんこ」(5kg)をプレゼント!

次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

あなたの防災または災害に関する情報の入手方法は?(複数回答可)
①道庁からの配信メール ②防災アプリ ③新聞
④テレビ・ラジオ ⑤インターネット(SNSを含む)

●応募方法: アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキまたはウェブサイトでご応募ください。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

●応募期限: 11月19日(火)必着
応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先 〒060-8588(住所不要)
北海道広報広聴課「広報紙11月号 おいしい道産品プレゼント!」係
広報紙ほっかいどう 検索 ▶

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。※8月号のプレゼントには、1,699件の応募をいただきました。



北海道の人口	総人口	男	女	※人口は毎月公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。
令和元年7月末	5,278,629人	2,493,011人	2,785,618人	
前年同月比	36,325減	17,211減	19,114減	

次号のお知らせ 12月号は11月20日(水)に配布開始の予定です。

発行/北海道総合政策部知事室広報広聴課
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
☎(011)204-5110 FAX(011)232-3796

リコールのお知らせ

セキスイ製ポータブルトイレを探しています

※イメージ図

約10cmのすき間に首などを挟む恐れ

ポータブルトイレをご利用の方は必ずご確認をお願いいたします

ポータブルトイレ交換窓口

対象商品を無料で交換いたします

受付時間/9:00~19:00 (土・日・祝日・年末年始除く)

0120-011-578

FAX 0120-231-756 products_i@sekisui.com

積水化学工業株式会社

〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17

SEKISUI

チェック 道庁ブログ「超!!旬ほっかいどう」では、イベントや道産食材、季節の便りなど、道内各地の旬の話題を発信しています。超!!旬ほっかいどうで検索。